

史書

#2

かまくらねんだいき 鎌倉年代記

作者: 鎌倉幕府吏員

成立: 元徳3年(1331)頃



解題

Keyword

- 鎌倉幕府
- 武家年表
- 「北条九代記」
- 壬生家文書
- 「吾妻鏡」

寿永2年(1183)から正慶元年(1332)までの、鎌倉幕府に関する記事を中心に記した武家年表。

別名『北条九代記』とも称されるが、近世に浅井了意(あさいりょうい)が著した仮名草子『北条九代記』とは別書である。また、同じ『鎌倉年代記』の書名で、高井蘭山、柳川重信による図会形式の史料もあり、同名異書に注意が必要である。

■ 成立経緯

本書は、表紙・表題・奥書を欠いており、編者や成立年代等是不詳であるが、その内容や記述方法により、鎌倉幕府吏員の手により元徳3年に原型が作成され、正慶元年分(表書)は追記されたとの見方が有力である。また、本書の末には空欄が残されていることから、さらに書き継ぐ予定であったことが想定される。

本書は、従来『北条九代記』の名で上下2巻本として『続群書類従』『改訂史籍集覧』に収められ、一般に知られていた。しかし『続史料大成18』(1967)で京都大学壬生家文書の伝本が、本書の原本かあるいは原本に極めて近い写本として紹介され、広く知られるところとなった。この伝本は、折本1巻で包紙に「鎌倉年代記 本書」と記される。また、本書の内容は北条氏に関連するものではないとして、『北条九代記』ではなく『鎌倉年代記』と称されるようになった。

■ 内容

京都大学所蔵本は折り本仕立1帖26折である。1折1面を3列に区切り各列を1年分とする。これを上下8段

に区切って天皇、年号、摂関、将軍、執権連署、六波羅探題、問注所政所両執事の各項目を配し、そこに任免や各人の略歴を記す。それぞれの年代の裏面には、その年に起こった事件を一筆で書き込んでいる。この裏書は『吾妻鏡』(＃1)との類似性が強いことが指摘されており、本書および『吾妻鏡』の成立を検証する一つの方法となっている。

現存するものは、寿永2年(1183)から正慶元年(1332)(裏面は元徳3年(1331))まで記され鎌倉時代をほぼカバーしている。原型は、この前に治承4年(1180)から寿永元年(1182)までの3年分があったと推測される。上下2巻本の『北条九代記』は、書写して伝えられる過程で形式が改められたものと考えられる。

幕府の追加法や機構編成等のほか、他の史料には見られない記録も多数見られ、鎌倉時代の年代記として貴重な史料である。

■ 諸本

『続史料大成18』解題(熱田公)では、京都大学付属図書館所蔵壬生家文書の伝本が、諸本のうち最善本とされ底本となっている。この京都大学本の影写本(1910年作成)が東京大学史料編纂所に所蔵される。また宮内庁書陵部所蔵の伝本は、「宝永2年 小槻季連 写」とされることからやはり壬生家旧蔵本と思われる。

なお、京都大学付属図書館の壬生家文書は、明治30年(1897)京都帝国大学創立の際に、教育・研究資料として宮内庁から移譲されたものと、狩野亨吉が収集した壬生家文書から成る。このうち狩野亨吉収集文書は、ほとんどが断簡とされることから、現在京都大学付属図書館が所蔵する『鎌倉年代記』は、もともと宮内庁書陵部の壬生家文書に収められていたものと考えられる。『国書総目録』によれば、このほか本書の伝本は、国立国会図書館(書名『北条九代記』)、日本大学(文化7年写)、神宮文庫、神習文庫に所蔵されている。

■ 壬生家文書

官務小槻(おづき)氏の壬生家が保管、伝来した文書群。現在、宮内庁書陵部と京都大学付属図書館に所蔵される。

小槻家は平安時代より代々、太政官の史(さかん：記録を司る官)を世襲するようになり、やがて文書勘例を掌る「官務家」と呼ばれるようになった。鎌倉時代には壬生家と大宮家に分裂し官務職を競ったが、応仁・文明の乱で大宮家が絶え、以来官務家といえは壬生家を指すようになった。

壬生家文書は、太政官文書、太政官関係所領文書、主殿寮関係文書、家領関係文書などが含まれる。これらの文書群は、明治期に宮内庁に献上され、現在の宮内庁書陵部が架蔵するところとなった。京都大学でその一部が所蔵されることとなった経緯は、前述のとおりである。

壬生家文書の刊本としては、『壬生家文書1～10(図書寮叢刊)』がある

が、太政官文書などこれに含まれていない文書も残されている。また、『国史大系27』に収められた「類聚符宣抄(外題：左丞抄)」「続左丞抄」も壬生家文書の一部である。「類聚符宣抄」は天平9年(737)～寛治7年(1093)の太政官符・宣旨などを集めた文書集で、保安2年(1121)～3年に書写された最古の書写本が壬生家に伝来した。「続左丞抄」は、元禄期に当時壬生家当主であった小槻(壬生)季連が「新写古文書」と題して、壬生家伝来の官符、宣旨などの古文書を書写して収めたものである。これは執務のための文例集で「類聚符宣抄(外題：左丞抄)」の続編ともいえる内容であるため、『国史大系』収録にあたってこの書名が付けられた。



史料本文を読む

<翻刻本>

- ◆「北条九代記」(『続群書類従』第29輯 雑部上 卷855 [081/2/29-1])
- ◆「北条九代記」(『改定史籍集覧』第5冊 通記 第22 近藤出版部 1925 [210.08/13/5])
- ◆「鎌倉年代記裏書」(『続史料大成18』臨川書店 1967 [210.08/87/18])
※底本：京都大学附属図書館所蔵本 図版、解題あり
- ◆「鎌倉年代記」(『増補続史料大成』別巻 竹内理三編 臨川書店 1979 [K24/134]) ※底本：京都大学所蔵本 表書・裏書とも掲載 図版あり
- 『鎌倉年代記』学習院大学文学部史学科研究室 [K24/237]
※東京大学史料編纂所架蔵影写本の書写本のコピー複製



史料についてさらに知る－参考文献－

<壬生家文書について>

- ◆橋本義彦「官務家小槻氏の成立とその性格」(『書陵部紀要』(11) 宮内庁書陵部 1959 [Z010.5/37] 再録『平安貴族社会の研究』吉川弘文館 1976 [210.36/132])
- 『壬生家文書1～10』宮内庁書陵部編 明治書院 1979-1988 (図書寮叢刊) [210.08/131/2～10] ※1巻のみ当館未所蔵
- ◆飯倉晴武「壬生家文書について」(『古文書研究』(33) 日本古文書学会 [Z210.08/80] 再録『日本中世の政治と史料』吉川弘文館 2003 [210.4MM/444])